

---

# 夏の陣

春野夜風

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夏の陣

### 【Zコード】

Z6537A

### 【作者名】

春野夜風

### 【あらすじ】

その少年、隼人は奴等と闘っていた・・・。それは夏の闘い・・・。人々はこの闘いを「夏の陣」と呼んだ・・・。

(前書き)

この「夏の陣」は暑い夏に誰にでも訪れる鬪いだと思こます。

「くそ！ コイツ等どんだけ出てくるんだ！」

戦い続けること約30分。日も沈みかけ、夜が近づいて来た。夜の戦いは非常に苦戦を強いられるだろう。まだ日があるうちに全滅させたい。それに、体力もそろそろ限界に達しようとしている。戦闘場所は玄関。逃げるのは容易だ。

しかし、己のプライドが逃げることを許さない。

その少年“隼人「ハヤト」”は右手に“広範囲攻撃可能高電圧ラケット（電気蠅叩き）”を、左手に“高圧広角噴射機（殺虫剤）”を握り、不規則的に現れる敵と戦っていた。足下には蠅叩きや殺虫剤の餌食となつたヤツ等の死骸がゴロゴロ転がっていた。

何度も何度も対峙し、苦戦の果てに撃退してきた敵、そう、夏の天敵“蚊”だ。

額の汗を拭い、手汗を拭き、ヤツ等の奇襲に備える。

「さあ！！ いつでも来い！！ 全員仕留めてやる！！！」

隼人は口に葛をいれなおした。

「来た！！」

隼人は素早く殺虫剤を噴射した。直撃をくらつたヤツ等は少しの間ヨロヨロと飛び、次々と地に伏した。

『皆の隼！ すでに気が付いているかと思うが今回のヤツの武器は

今までよりも飛び抜けて強力だ！ 最善の注意を払え！』

他のヤツ等と比べて少しばかり大きいヤツがいる。おそらくアイツが親玉だらう。

「倒しても倒しても湧いてきやがって！ いい加減にしゃがれ！」

再度言つが逃げることはプライドが許さなかつた。

『恐るることはない！ 我等に負けはありえない！ 我等には数多の同胞がいる！ 再度言つ！ 恐るることはない！ さあ！ 田の前の敵を戦滅してやうひつではないか！』

「フラフラとたかつていた大量の蚊の一部が一斉に飛んで來た。

「負けるか！」

蚊を目掛けて殺氣に溢れた蠅叩きを振るつた。隼人は攻撃の手を休めない。続けざまに殺虫剤を噴射し、攻撃をしながら防御壁を開した。

『ぐそ！ 第1派がやられた！ 怯むな！ 第2派参れ！』

何匹来よつが要領は一緒ボタボタと地に落ちる。

「今日の俺は一味違うんだ！！」

すでに何十匹もの蚊の体や誰かの血がこべりついていたラケットを振り続ける。

今までの蠅叩きなんかとは圧倒的に威力が違う。元来の蠅叩きな

「いやヒットしても生き延びる可能性はあったが、『トイツなら当たつたら最期、一撃のもとに消し炭となるだろ？』

しかし、いくら武器が高性能でも必ず欠点がある。

『……はたして、我にそれを命中させると出来るかな？』

わづ、どんなに強く武器を使用しても当たらなければ意味がない。

「絶対に仕留めいやる……」

言い終えると同時にヤツ等は辺りを飛び回り、隼人を翻弄した。

「クソ…… 素早い……」

田で追つのもままならない。これでは敵に攻撃を仕えるなど到底出来ない。

『ハーハツハツハツ…… どうしたどうした…… 我を仕留めるのではなかつたのか……』

隼人は手にした武器を巧に活用して親玉を追撃しようとした試みるがそれを上回る巧な動きで華麗に全てかわしていく。

「くつ……」

“あれ”を使うしかないのか……。

『そのような武器では我を仕留めるなど夢のまた夢……』

ヤツは高らかに笑つた。

「ならばコレでどうだー！」

隼人は右手に殺虫剤を、左手に“手動式小型着火機”（またの名を“ライター”と言つ！）を構え、ライターを着火！そして殺虫剤を噴射！

殺虫剤×火＝火炎放射

『む！　これはマズイ！』

親玉は紙一重でそれをかわした。しかし、この攻撃により、かなりの蚊は黒焦げになつて地に伏した。

「これで大分減つたな。」

しかし、安心してもいられない。蚊の生き残りが次々と襲い掛かつてくる。

「しつこい……」

隼人は向かつてくる蚊達に殺虫剤を噴射……

「ちつ……」

隼人は殺虫剤の缶を捨て、ラケットを振つた。

しかし、数匹の蚊が攻撃をかいくぐり、隼人の腕に張り付いた。

「しまつた……」

急いで叩き潰すも、しつかり血を吸われてしまつたらしく、赤く腫れ上がってきた。

『やつたぞー！ ヤツにダメージをあたえることが出来たぞー！』

「仕方ない・・・。これだけは使いたくなかったが・・・。」

隼人は一戻家の中に戻つて、ある物を持つてきた。

「コレさえあればオマエ等の命もおしまいだー！」

ある物とは、殺虫効果のある水を煙に変え、広範囲に渡つてその効果を發揮するという恐ろしい產物だ。

「くらえーー！」

隼人がそのスイッチをいれようとしたとき、

「隼人ー！ 晩ご飯できたよーー！」

母の声が。

「マジでー？ 今行くー！」

隼人はさつと家に戻つていった。

プライド？ 知つたとか。そんな安いプライド捨てちまえ。

今日も平和な夏だ。

（後書き）

皆さんもレッツバトル！！（蹴

評価・感想いただけすると感謝感激です。

m（――）m

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6537a/>

---

夏の陣

2011年1月27日06時28分発行